

野辺地尚義を知って

幕末～明治に活躍・花巻出身の蘭学者



花巻市出身の蘭学者、野辺地尚義を紹介する書籍「紅葉館館主野辺地尚義の生涯」を、玄孫の野辺地えりざさん(71)が出版した。えりざさんは「幕末から明治時代にかけて活躍した尚義を岩手の人にも知ってもらいたい」と話す。

尚義は幕末に生まれ、江戸で蘭学者として、花巻市出身の蘭学者、野辺地尚義を紹介する書籍「紅葉館館主野辺地尚義の生涯」を、玄孫の野辺地えりざさん(71)が出版した。えりざさんは「幕末から明治時代にかけて活躍した尚義を岩手の人にも知ってもらいたい」と話す。

尚義は幕末に生まれ、江戸で蘭学者として、花巻市出身の蘭学者、野辺地尚義を紹介する書籍「紅葉館館主野辺地尚義の生涯」を、玄孫の野辺地えりざさん(71)が出版した。えりざさんは「幕末から明治時代にかけて活躍した尚義を岩手の人にも知ってもらいたい」と話す。

功績紹介の本出版 玄孫のえりざさん



尚義の功績を紹介している。えりざさんは30年前、偶然開いた歴史の本の中に祖父の祖父である高祖父の名前を見つけたことから興味を持ち、図書館などで資料を探して足跡を調べてきたという。さらに京都や岩手などゆかりの地なども取材し、1年半かけて一冊の本にまとめた。

えりざさんは「高祖父は岩手と東京を行ったり来たりしながら、岩手のために努力をしていた。今も岩手に頑張ってもらいたい」と話している。桜出版、1400円(税別)。問い合わせは野辺地えりざさん(03・33308・5829)。

【鹿糠亜裕美】

2016年9月、盛岡市北山1の教浄寺を訪れ、尚義のおい・山屋他人の顕彰碑の横で記念撮影をする野辺地えりざさん(本人提供)本の表紙